

—ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかりやすい授業づくり」—

「伝わりやすさ」を考えよう！



【指導室 特別支援教育班】

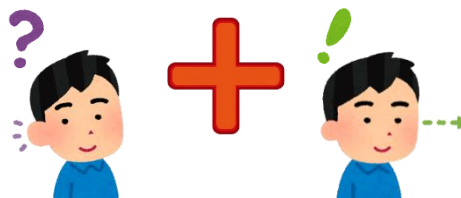
葛南教育事務所では、令和3年度葛南教育事務所重点目標の一つとして、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた『わかりやすい授業づくり』」を掲げています。今回は、わかりやすい授業づくりのポイントとして、「伝わりやすさ」について考えてみましょう。教師が、一人一人の児童生徒にとっての「わかりやすさ」を意識して情報の伝え方を工夫することで、児童生徒の集中や理解を促すことができます。児童生徒のことを、「集中力が無い」「理解力が低い」等と判断する前に、「伝わりやすい伝え方をしているか？」と、教師自身の振る舞いや言葉を見直すことが大切です。

Point 1 ～聴覚情報と視覚情報を組み合わせよう～

- ★聴覚情報は、話した内容が流れていってしまいがちですが、視覚情報は内容が消えずに保持されるという特性があります。聴覚的な情報を頭の中に留めておいたり、留めた記憶をもとに考えたりすることが苦手な子どもは、話を聞いているように見えて、「意味を捉えていない」「聞き流している」「聞き漏らしている」「聞いた後に忘れていく」ということがあります。そのような時に、いつでも確認できる視覚情報が手がかりになります。
- ★聴覚情報は視覚情報に比べて、瞬間的な注意を引き付けやすく、感情や雰囲気といった「非言語的な情報」を伝えやすいという特性があります。
- ★子どもによって、得意な情報処理の方法は異なります。対象の子どもの様子や、伝えたい内容に応じて、聴覚情報と視覚情報を組み合わせてみましょう。

大事な話をします。

明日は探検ボードと虫眼鏡と赤鉛筆を使うので、忘れずに用意しましょう。
まだもらっていない人は、昼休みに先生のところへ来てください。
探検、楽しみですね。



○月○日○曜日 【たんけん】

つかう物・たんけんボード
・虫めがね
・赤えんぴつ



もらっていない人は、
ひる休みに先生のところ
にきてください。

Point 2 ～伝える順序や話の構成を工夫しよう～

- ★結論を先に伝える／後に伝える、全体を伝えてから細部を説明する／一つ一つ順序立てて説明するなど、話の構成の仕方は様々です。内容や対象の子どもに合わせて、あらかじめ構成を考えておくようにしましょう。
- ★前置きをしてから話すことで、着目すべきことが分かります。
例：「〇〇について話します。〇〇は△△だから、よく聞いてくださいね。」
「話のポイントは、〇〇です。」
- ★話の流れの見通しを伝えておくと、安心して聞きやすくなります。
例：「これから、大事なことを二つ伝えます。」
「まず、〇〇について話します。その後に△△について話します。
△△が気になるかもしれないけれど、まずは〇〇の話をお聞きしましょう。」
- ★複雑な内容や、複数の内容を一度に伝える場合には、視覚的に示す工夫もできるとよいでしょう。

質問はあとで
できるんだな…



運動会のリレーについて

【先生の話】

- 1 運動会の日時
- 2 リレーの方法
- 3 選手の決め方 **重要!**

【質問タイム】

【相談タイム】

Point 3 ～言葉を精選し、話し方を工夫しよう～

★自分の話し言葉を、一度書き出してみましょ。子どもにとって、聞きやすい長さか、分かりやすい表現かを考え、 unnecessaryな言葉を省いたり表現を工夫したりしてみましょ。

今日はこれから、はさみと折り紙を使って切り絵作りをしたいと思いますので、引き出しと道具袋からはさみと折り紙を出してください。早く準備ができた人は教科書の切り絵のページ…えー、24ページですね…をあけて、みんなの準備ができるまで読んで待っていてください。静かに読んでくださいね。



これから、切り絵作りをします。引き出しから折り紙と、道具袋からはさみを出します。準備ができた人は、教科書の24ページをあけて、静かに読んで待ちます。

★具体的で明確な表現をしましょ。抽象的で曖昧な表現は、分かりにくいことがあります。

もう少し時間があるので、最後まで気を抜かずにしっかりやりましょ。ちゃんと見直しもした方がいいですよ。



終わりの時間まで、あと5分です。できていない問題があつたら、繰り返しチャレンジしましょ。全部できた人は、見直しをしましょ。

★一つの文に複数の情報を盛り込まず、一つの情報にすると分かりやすくなります。

今日の給食の胡麻和えに入っている人参と小松菜は、千葉県の特産物で、人参は習志野産、小松菜は船橋産の物を使っていますので、よく味わって食べましょ。



今日の給食の胡麻和えには、千葉県の特産物が使われています。人参は習志野産、小松菜は船橋産です。よく味わって食べましょ。

★声の大きさや高さ、話すスピード、発音の明瞭さ、話す位置、ジェスチャーや表情を工夫してみましょ。聞き取りやすさや、安心感や緊張感の伝わりやすさを意識して、話し方のバリエーションを使い分けてみましょ。

★立て続けに話さず、話の前後や合間に、適度な「間」をもたせることも大切です。



Point 4 ～子どもの反応を確認しながら進めよう～

★「話に集中できているかな?」「興味をもっているかな?」「話していることは伝わっているかな?」「疑問を感じていないかな?」など、子どもの反応をよく見て、話のスピードや進め方を調整することが大切です。特に、板書をしている時には子どもの姿が見えなくなるので、意識的に全体を見渡す時間をとるようにしましょ。



★話の間に、挙手や相槌、発言を促すような発問を取り入れて、子どもが受動的な聞き役ばかりにならないように気を付けましょ。子どもが主体的に聞き、考え、気付くことができるような発問の仕方を工夫しましょ。

★時には子どもの目線で「教師も一緒に考える」時間を設けるのもよいでしょう。子どものペースに寄り添い、子どもと一緒に「発見」や「相談」をしてみてもいいでしょうか。

教師の「伝え方の工夫」は、児童生徒の意欲や集中、理解を促す「鍵」です。他の教師の伝え方や、テレビ番組なども参考になります。

学級によって、個々の児童生徒によって、授業の課題によって、場面によって、意図をもったよりよい伝え方を工夫してみましょ。

今回は、主に「話し方」について記しました。次回は「視覚的な情報提示の工夫」について考えていきます。

